

## 令和2年度福島県生涯学習審議会議事録

1 日 時 令和3年2月2日(火) 13:30～15:00

2 場 所 中町ビル 2階大会議室

3 出席者 別紙名簿のとおり

### 4 議 事

(1) 福島県生涯学習基本計画の進行管理について

(2) 福島県生涯学習基本計画の改定について

○改定スケジュールについて

○生涯学習アンケート調査結果について

(3) その他

○東日本大震災・原子力災害伝承館について

### 5 内容

(1) 開会 (司会 武藤生涯学習課主任社会教育主事)

(2) 挨拶 野地文化スポーツ局長

(3) 新委員自己紹介

(4) 定足数確認

○事務局より

福島県生涯学習審議会条例第5条第3項により、委員は15名であり9名の出席、定足数(過半数)が出席し、審議会が成立することを報告。

(5) 会長及び副会長の選出

○会長に福島大学木暮照正氏、副会長に佐々木吉晴氏が選任された。

(5) 挨拶 木暮福島県生涯学習審議会長

(6) 議事録署名人選出

○議長の指名により、平野直樹氏、鈴木道代氏が選任された。

(7) 福島県生涯学習基本計画の進行管理について

○事務局(渡邊生涯学習課長)より

① 福島県生涯学習基本計画について

② 令和元年度生涯学習審議会意見について

③ 令和2年度福島県生涯学習の実施状況について

④ 指標の進捗状況について

⑤ 令和3年度福島県生涯学習事業計画について

○上記の件に関して説明し、以下の質疑等があった。

#### 【大川委員】

生涯学習基本計画の進行管理について、指標の進捗状況を確認するために様々な数値目標を掲げ、その達成状況が現況値で示されている。もちろん、

1人でも多くの方に講座などに参加していただく事は大切である。しかし、生涯学習は、来ていただく方にどんな体験をしていただくか、体験していただいたことが今後どのように波及していくのかなども大切なことだと考える。生涯学習を推進していくうえで、携わる団体や個人の皆さんにフォローしていただけるような施策が必要であり、その施策に見合った現況確認を考えていく必要がある。

また、震災から10年であり、新型コロナウイルス感染もある。そういったこともフォローできるような施策も必要である。

#### 【生涯学習課】

数値的な目標も必要であるが、生涯学習としての成果は、それだけでは図りきれないこともあるのではないかと御意見と受け止めている。

昨年度も、佐々木委員から指標の設定の仕方については、ヒントをいただいた。そのヒントをもとに、資料3の2番目に今年度の取組を紹介させていた。講座の内容を自ら考えて、自ら学ぶ態度を養う内容で構成されている講座の参加人数を指標とするなどの御意見を参考にしながら、来年度の基本計画改定に取り組んでいきたいと考えている。

#### (8) 福島県生涯学習基本計画の改定について

○事務局（本多生涯学習課主幹）より

⑥ 福島県生涯学習基本計画改定までのスケジュールについて

⑦ 生涯学習アンケート調査結果について

#### (9) その他

○事務局（本多生涯学習課主幹）より

東日本大震災・原子力災害伝承館について

#### (10) 審議委員の皆さまから

##### 【平野委員】

社会福祉協議会においても、新型コロナウイルスの影響により、様々な会議や研修をリモートで行うしかなかった。現在では、職場での環境も随分整い、全国的なブロック会議でもリモートが行われ、移動時間の短縮はとても大きなメリットである。

今回の生涯学習アンケート調査結果からも、県民の家庭においてもインターネット環境が増えてきている。今後の計画改定を考える中で、インターネットを活用した学習機会を考えていくことはとても重点的な項目の1つである。

##### 【木暮会長】

リモートオンライン学習が、結果的に普及しましたので、これからは生涯学習においても無視できない項目になってきたと考えられる。

##### 【大川委員】

FTV カルチャーセンターにおいても、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。講師の中には、首都圏から来ている講師もいる。今は、一部リモートで行っているが、高齢の方にはリモートでの講座の難しさを感じている。実際に顔をつきあわせてのコミュニケーションを求めている高齢者も多く、リモートで講座を行うことは厳しい部分もあると認識している。

##### 【木暮会長】

生涯学習関連講座を推進する現場の声ということで、貴重な御意見である。

【佐々木（吉）委員】

新型コロナウイルス感染症対策のためのリモートを活用した取組では、大学や美術館においても様々な工夫をしながら取り組んでいる。

大学では、コロナ陽性者の推移を考慮し、下半期から実技系の授業では、リモートを取りやめ、実際に材料に触れてものをつくっている。美術館や博物館においても、リモートが適切なものとそうでないものとを分けて取り組む必要があると考えている。コロナ渦では、強制的にリモートでの活動を強いられ、資料体験と現物体験をどのように提供していくべきなのかを見定める機会をいただいたと考えている。

これからの生涯学習基本計画策定では、こういった現状を踏まえた計画策定が必要だと考えている。

教育の普及活動に視点を置くと、2つの方法がある。1つは子どもたちに教える方法であり、もう1つは、自主的に考え、自分たちでつくっていく主体性を持った活動を行う方法がある。後者の主体性を推進する方法を増やしていかなければいけないと認識している。そのためには、進行管理の指標でも、入館者数や年間の参加人数のみを指標として取り上げることが好ましくない。後者のような事業や講座を実施し、結果としてどのくらいの動力があつたのか、参加があつたのかを踏まえることができる指標づくりが大切だと考える。

また、東日本大震災・原子力災害伝承館の資料展示では、県立博物館などが所有している収集資料も数多くあると伺っている。そういった資料も活用していくことも必要なのではないか。「長期化する原子力災害の影響」のコーナーでは、現在も復興に向けて、様々な統計や数字が変化している。最新の情報に更新することも必要になってくると思われる。

【木暮会長】

美術館長としての立場より多角的な発言をいただいた。事務局から補足ありますか。

【生涯学習課】

本日の資料4にもございますが、次期基本計画を策定するうえで、県立博物館を中心とした社会教育施設との連携を形作る必要があると考えている。また、学校を対象とした研修事業を継続するなど、発信力を高める工夫をしていきたい。今後の審議会においても、様々な御意見をいただきたい。

【佐々木（公）委員】

生涯学習の推進に向けて、様々な事業が展開されていることが分かった。非常に素晴らしいと感銘を受けた。しかし、県民の生涯学習意識調査速報値では、この事業や講座を「知らない」と回答している県民が見受けられるのが残念である。どのようにして情報提供していくのかを突き詰めていく必要がある。

また、東日本大震災・原子力災害伝承館開館では、浪江町出身の私としては、素晴らしい施設をつくっていただいたと感じている。青年会議所は、全国にたくさんの会員がいるので、PRさせていただきながら、震災の風化を防ぐために支援していく。

【平野委員】

生涯学習推進施策3における「学習の評価と活用機会の確保」にも挙げられている「ジョブカードの普及啓発」は、福島職業能力開発促進センターで取り組んでいる内容である。これまで取り組んできた経験からも、その有効性が確認できる施策である。

この中で、ジョブカード交付件数における学卒訓練は、テクノアカデミ

一学生の件数が伺いたい。

【生涯学習課】

新型コロナウイルス感染症対策により、担当課が欠席しているため、確認し連絡する。

【木暮会長】

ジョブカード交付件数につきましては、事務局において後ほど回答いただく。

【長沼委員】

下郷町には小学校が3校あり、全ての小学校で放課後子ども教室が行われている。毎日活動しているので、指導員のスキルアップが子どもたちの学びの向上につながると考えている。ICTの活用については、動画作成やユーチューブを活用した取組を指導することができる指導者の育成も必要になると考える。

家庭教育応援事業では、南会津では、「南会津の会」という団体があり、就学時検診時に保護者向けの講演活動を行っている。こういった活動を企画する際には、県が行っている研修会を参考とする場合も多いので、今後も研修できる機会をつくってほしい。

また、読書活動支援研修も大変有意義な研修であるので、今後も継続してほしい。

【木暮会長】

長沼委員が関わっている活動での活用人材の育成について、御意見をいただいた。

【鈴木（道）委員】

生涯学習事業は、心の元気をつくる、生きる力になる大切なものである。指標に関することであるが、様々な事業や講習会への参加人数のみで進行管理をするのではなく、その成果や効果が見える形にすることも必要だと考える。

今回のコロナ渦では、国見町の高齢者において、認知能力や体力の低下とも見て取れるような状況もあった。

また、高齢者は機会操作が苦手で、リモートにおける研修会や講習会参加はとても困難である。今後、リモートで参加できるような研修会も必要である。そして、子どもたちにとっては、やはり、実際に触れることができる体験が大切である。

【木暮会長】

様々な観点から御意見をいただいた。子どもたちの体験活動に関しては、現在、大学ではオンラインが中心になっている。しかし、子どもたちの成長にとっては実際に体験することの重要性も考えなければならないとの意見である。

【鈴木（圭）委員】

福島市においても、今年度、生涯学習振興計画を策定した。進行管理では、数値目標を設定してしまうことの難しさを感じた。コロナ渦により、各部屋の定員を3分の1に制限している。そのため、参加人数を制限するしかないのが現状である。参加人数や来館者数を目標に設定してしまうと、どうしても達成目標には及ばない。人数には現れない効果や成果を表す指標を考えていくことも大切である。

リモートでの講座に関しては、コロナ渦により全く事業を開催できない時期に、学習センター事業で川柳講座をユーチューブ配信した。その結果、例年より若い方の応募が増えた。ICTの活用は、新しい参加者を開拓するうえで有効な手段であると感じた。

また、高齢者には ICT 機器に不慣れな方が多い。今後、生涯学習を推進していくには、高齢者向けの研修会などを行う必要がある。

【木暮会長】

来年度は、生涯学習振興計画策定を行うことになる。この審議会  
で、検討していただく事になる。今般の新型コロナウイルス感染症、10  
年前の東日本大震災、原子力災害もそうでしたが、新しい問題のように見  
えて、昔から問題視されてきたものが掘り起こされたような意見もあつ  
た。実際に顔を合わせての活動ができない事で、学びが停滞することもあるが、工夫すれば学びのコンテンツは提供できることもあると分かってきた。

しかし、学び合うという部分が ICT でフォローできるか、また、高齢者  
の方はどのようにフォローできるのか。ICT を介したこの新しいつながりが、健康なつながりといえるのかについても検討していかなければならない部分である。皆さまの御意見を次期計画に反映させていければと思います。

(10) 閉会

以上 議事録に相違ないことを証する。

令和3年 4 月 7 日

議事録署名人 平野 直 樹 印

議事録署名人 鈴木 道代 印